

# 秋田港・船川港・能代港に係る要望

平成30年7月6日

秋田商工会議所	会頭	三浦	廣巳
秋田港振興会	会長	三浦	廣巳
秋田みなと振興会	会長	矢吹	達夫
秋田県貿易促進協会	会長	齊藤	健悦
船川港港湾振興会	会長	西宮	公平
男鹿市商工会	会長	加藤	義光
能代商工会議所	会頭	広幡	信悦
能代港湾振興会	会長	齊藤	滋宣

秋田県内の重要港湾、秋田港、船川港、能代港の整備につきましては、平素よりご配慮を賜り厚く御礼申しあげます。

秋田では、経済発展著しい日本海対岸や東南アジア諸国の成長を取り込み地方創生を実現するため、環日本海の経済交流を推進し、諸外国との貿易拡大に地元企業と行政が一体となって取り組んでおります。これを支える最も基礎的な社会資本として県内各港湾の整備を着実に推進することが肝要です。

また、秋田県におけるクルーズ船の寄港について、平成30年は22回の寄港が見込まれておりますが、クルーズ船の寄港は港の直背後地の地域のみならず、広域での観光振興や活性化に大きく寄与するものと認識しております。当県では平成29年に「あきたクルーズ振興協議会」を設置し、行政と民間が一体となったクルーズ船の誘致や受入に関する取組みを展開していますが、港を拠点とした観光振興による地域経済の活性化を図るうえで、クルーズ船の受入環境を改善するための港湾施設の整備を促進することが必要と考えます。

加えて、秋田県の各港は、発電所、LNG基地、国家石油備蓄基地等の立地によりエネルギー供給拠点としての役割を果たしてきました。更に能代火力発電所の発電施設の増設、秋田港への新たな火力発電所の立地計画、能代、秋田両港や一般海域での洋上風力発電施設の立地計画等が進捗しており、日本を支えるエネルギー拠点としての重要性が増し、これを支える港湾の役割も重くなっています。

港湾は、地域の経済社会のみならず我が国の社会活動を支える重要な任務を担っておりますことから、港湾内の静穏度の確保を始めとした必要な施設の整備を進めるとともに、平素からの維持管理により機能を保持し続けることが不可欠です。

このために必要な港湾関連予算を十分に確保いただきますよう強く要望いたします。

東日本大震災においては、秋田県の各港に入った支援物資が太平洋側に輸送され、被災地の復旧復興に役立ちました。地域の防災力の強化とともに、大規模災害時の広域的対応のためにも日本海側、秋田県の各港を防災拠点として活用するべきと考えます。また、今後日本海沖で想定される地震津波に備えた港湾背後地の人命・財産を守る津波対策施設整備、発災時の対応を確実にするための各港における耐震強化岸壁の整備や、緊急物資等の貯蔵、保管の拠点としての機能を高めるための埠頭用地の増設が必要と考えます。

このような港湾の機能を最大限に活用するためには、各産業・観光・防災拠点等を結ぶ港湾を核とした交通ネットワークの構築が重要であり、秋田港と秋田自動車道を結ぶアクセス道路や、県内の高速道路の早期整備が必要と考えます。

加えて、秋田を含む地方の港湾では、大型船舶が入出港する際に必要な水先人が不足しています。港湾運営上、致命的な問題ですが、地方では水先人の高齢化が進み、その後継者が確保できないのが現状です。全国的な課題として水先人の確保について取り組む必要があります。

こうしたことを踏まえ、秋田港、船川港、能代港の各港で抱えております喫緊の課題を克服するため、今般、国のご協力を要望するものです。

各港の課題を以下に挙げさせていただきます。

#### <秋田港>

秋田港は、国際コンテナターミナルの拡張により年間コンテナ取扱能力が10万TEUに拡大し、環日本海交流を支える物流拠点としての益々の発展が期待されており、平成28年のコンテナ取扱量は過去最高の79,461TEUを記録し、29年も75,184TEUと高水準を維持しています。

また、近年のクルーズ船寄港の増加に伴い、秋田県とJR東日本秋田支社が国の交付金等を活用し、秋田港クルーズターミナル及び秋田港駅のプラットホームの整備を図りました。クルーズターミナルは今年4月に供用を開始し、クルーズ列車も本格運行をスタートするなど、クルーズ客の受入態勢の強化が図られています。

更に、秋田県沿岸には多数の風力発電施設が設置され、発電施設に関する建設資材等の荷役に秋田港が活用されています。加えて、新たに民間企業による洋上風力発電施設及び同メンテナンスセンターの建設が計画されているほか、大規模石炭火力発電所の建設も予定されているなど、着実に環日本海エリアにおける大型プロジェクトが進展しており、今後、関連する物流の集中が見込まれます。

このように秋田港は、物流・観光・エネルギーの拠点として明るい材料が揃っています。また、東日本大震災の時には、太平洋側の代替港として重要な役割を果たしましたが、今後の災害発生時に備え、緊急物資の輸送ルートや曳船の係留地を確保するとともに、漂流物防護柵や避難タワーの整備等の港湾労働者等を守る津波対策を講ずる必要があります。

これら秋田港を取り巻く環境の変化を契機とし、秋田港を拠点とした地域活性化を図っていくため、昨年、秋田県が主体となり秋田港長期構想を策定しました。

本構想は、「産業物流・交流拠点・港湾環境・防災」の4つの視点で戦略が立てられており、コンテナターミナルの機能強化・大型クルーズ船受入に関する環境整備・洋上風力発電部材および木材等の荷揚げに対応する大型バルクターミナルの形成等が盛り込まれています。

今年度、本構想をもとに改訂が予定されています、秋田港港湾計画に位置付けられた計画が、早期に事業化されることを強く望みます。

特に、今後の更なるクルーズ船の寄港回数増加を見据え、クルーズ船2船同時接岸が可能となる本港地区の岸壁・泊地の整備を秋田県が計画していることから、本整備が早期に実現されるようご支援をお願いします。

また、秋田港は、海釣り施設の整備等による海洋性レクリエーション施設の拠点化も目指しており、その具体策の一つとして“海釣り施設としての防波堤開放”を計画しています。今年7月に北防波堤を試験開放し、来年度には本格開放をする予定でありますことから、防波堤の開放が安全かつ円滑に進むようご支援をお願いします。

#### <船川港>

船川港は、その地理的要因から静穏な海域を有し、これまで地域を支える港、避難港としてその役割を果たしてきました。

近年、日本海沿岸では木造船の漂流・漂着が相次ぐなど、不測の事態に備えることが喫緊の課題であり、秋田国家石油備蓄基地を擁する船川港にとって特に重要な問題となっています。

船川港は、港湾背後の北西部に位置する真山、本山により、冬季の北西の季節風による影響の少ない良港であるため、不測の事態に際して出動準備を揺動の少ない状態で完了し、速やかな対応が可能です。地域住民の安全・安心の観点からも、国関係官公庁船の拠点化が望まれます。

また、県内におけるクルーズ船の寄港回数は増加傾向にあるなか、船川港においても、昨年度は過去最多の4回のクルーズ船寄港があり、内1回は外国船籍のクルーズ船が初入港し、交流人口の拡大が行われています。更に、本年5月には、クルーズ船寄港時の食材として新たに男鹿市の商品が採用されるなど、地元製品の販路拡大に期待が高まっています。

男鹿市では、本年7月1日に船川港臨港地区内に市内周遊観光の交流拠点として複合観光施設「オガーレ」（「みなとオアシスおが」の代表施設として本年4月24日登録）が開業します。同日、隣接地域にJR男鹿駅が移転・開業するなど、クルーズ船受入れのための背後地の環境整備も進んでおり、港周辺を核とした活性化が期待されているところです。

今後、更なるクルーズ船の誘致を図るためには、航路泊地の浚渫によ

る規定水深の確保や経年劣化により傷みが生じている15,000トン岸壁の補修、寄港歓迎行事等ソフト事業への新たな支援策など、クルーズ船受入環境の整備が必要となっています。

また、船川港は秋田県が公表した発生頻度が高いと予想される津波の高さに対し、県内の港湾区域で唯一、既設堤防の高さが津波の水位より低く、背後地の浸水面積が一番広いと想定されています。このため、港湾労働者等の安全確保に向けた対策は最も重要かつ急務であることから、津波対策施設としての漂流物防護柵及び津波避難タワー等の早期整備が必要です。

このほか、作業船につきまして、整備・修理を行うためには、既存施設では小型船しか対応できない状況であることから、大型の作業船が上架可能な施設の早期整備が必要です。

#### <能代港>

能代港は、県北部の海の玄関口であり、能代火力発電所及び今後進められる予定の洋上風力発電等を支えるエネルギー拠点です。また、リサイクルポートとして秋田県北部エコタウン計画と連携強化することにより、更なる地域経済の活性化に貢献することが見込まれます。

現在、能代火力発電所では発電施設の増設が進められており、年間を通じた安定した燃料の確保の重要性が高まるとともに、県北地域一帯の物流の安定・安全を確保するため、静穏度向上と泊地の水深確保が急務となっています。

一方、周辺地域での陸上風力発電施設の建設や港湾区域内及び一般海域での洋上風力発電計画が進んでおり、風力発電施設のメンテナンスセンターも立地するなど、メンテナンス拠点として有望視されています。こうしたことから、風力発電関係の設備・部品等の荷役及び保管が安定的に行える港湾施設の必要性が高まっております。

更に、能代港は洋上風力発電建設の有望地である北海道から東北・北陸地方の日本海沿岸地域の中心に位置しており、その建設を効率的に進めるための港湾インフラやメンテナンス基地機能を集中的に整備することにより、地域経済の活性化が図られるとともに、地球温暖化の抑制、将来にわたっての安定的・経済的に望ましい電源構成にも資するものと考えます。

このほか、近い将来、県北地域を結ぶ高速道路の完成が見込まれ、地域物流の拠点として、また県北地域のクルーズ船の玄関口として、港湾施設の更なる充実が求められています。

こうしたことを踏まえ、今年3月に県北地域の一体的な飛躍に向けて、能代港の将来構想である「能代港ビジョン」の中間とりまとめをいたしました。今後、このビジョンに沿って、早期に港湾整備を進め、県北地域の活性化に繋げていくことが必要です。

以上を踏まえた要望事項を以下に取りまとめましたので、特段のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## <要望事項>

### 1. 各港共通

- 港湾関連予算の確保

### 2. 秋田港の整備

- クルーズ船受入環境整備への支援
- 港内静穏度の向上を図る国直轄事業による外郭施設（防波堤）の整備促進
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援
- 防波堤開放による釣り場確保への支援

### 3. 船川港の整備

- 国関係官公庁船の拠点化のための将来構想策定に向けた支援
- クルーズ船受入環境整備への支援
- 港湾背後地の人命・財産を守るための津波対策施設整備への支援
- 広域的な船舶の整備・修理を行う拠点となる港湾整備への支援

### 4. 能代港の整備

- エネルギー供給拠点である能代港における国直轄事業による外郭施設及び大森地区泊地（-1.3m）予防保全事業の整備促進
- 洋上風力発電の建設及びメンテナンスのための港湾インフラの整備への支援
- クルーズ船受入環境整備への支援